

グローバル人材育成に向けた キャリア開発センターの 役割と取り組み

国際教養大学キャリア開発センター長
国際教養学部教授

源島福己



●国際教養大学
本学は全科目英語で授業を行い、教養科目に特化した教育の中で寮生活や1年間の海外留学と単位取得を義務付けている。そのうえで豊かな教養、異文化交流体験、幅広い視野と英語及びその他外国語の高いコミュニケーション力を持ち、将来グローバル社会で活躍する人材の育成を目指している。

キャリア開発センターでは、この観点からキャリアデザイン授業以外に、キャリア教育に関わる次のような支援を行っている。

1 GAP YEAR

GAP YEARとはイギリス等の英連邦諸国を中心として発達した体験学習推奨制度で、主に高校卒業後大学に入学する前に、学生が入学を延期して、この間にアルバイトやボランティア活動等を行うものである。

現在この制度を入学前の段階で取り入れているのは、日本では国際教養大学(AIU)のみだと考えられる。本学のGAP YEAR活動期間は半年間で、学生の入学は9月としている。

また入試では本人の行動計画やその狙い等を面接で確認し、審査した上で学生を選抜している。これまで29人がこの制度を利用して入学した。今年も14人が選ばれ、入学までにさまざまな社会体験を行う予定である。

キャリア開発センターでは、入学予定者との入学までの連絡、計画のサポート、発表会の開催、レポート管理、単位認定等の支援を行っている。毎年多くの学生が前半アルバイトで資金を稼ぎ、後半で外国に渡航し何らかの仕

事、ボランティア、外国語の研修等を複数組み合わせて行っているが、その内容はインターンシップ科目として単位認定される。

過去にはインド、豪州、米国、カナダ、ハワイ、台湾、フィリピン、タイ等の国でボランティア活動や職業体験をして入学した学生がいる。

2 インターンシップ

インターンシップは選択科目で、期間は2週間〜3カ月以内、3単位を授業科目として認定している。キャリア開発センターでも受入先の発掘や受入条件交渉等のサポート、終了後のレポート管理や単位認定を行っている。これまで学生の自己認識、職業理解、職業選択能力等を高めるうえでインターンシップの果してきた役割も大きかった。その一例を紹介したい。

去年、ある企業の人事部長さんが突然アポなしで訪問され、センター内の応接室に入ってきたが、驚いたことに、その部長さんは自社が今回面接して内定を出した女子学生のプレゼン

テーションに遭遇されたのである。

その時の学生のプレゼンのタイトルは「Protection and Conservation of Sea Turtles」であった。彼女は米国留学中の夏休み期間に単身メキシコに出かけて、現地で1カ月間寝泊まりしながら世界中から集まった若者と協力し、ウミガメの産卵の支援と卵の保護を行うプロジェクトに参加してきた。その経験を自らが採ってきた写真を交えながら実に手際よく自信を持って語ってくれた。私とその部長さんはその時、まさにその情熱と行動力があつたればこそ彼女は企業からの採用内定が採れたのだと確信した。

昨今日本企業のグローバル人材採用が進展する中で、日本人学生は今や就職活動において一つは日本人学生同士、もう一つは外国人学生との二重の競争に晒されている。英語力はすでにグローバル化時代を生き抜く必須の条件であり、日本人学生に求められる能力やスキルの要求レベルはますます高度化している。

しかしもつと学生に期待されているのは、何か困難な目標に取り組んだ、他者と真剣に触れ合った、互いに協力して問題を解決し目標を達成した体験等であり、それが言語、教育内容、文化、生活条件等が大きく異なる環境の中で行われたのであればさらに望ましいと考えられる。

GAP YEARと海外でのインターンシップ体験は本学の学生の成長を促し特徴を形成するものとして、当センターでも今後支援を強化していきたい。

